

# わおん通信

2012  
春号



## CONTENTS

2面 ■ 和歌山県環境学習セミナー開催

3面 ■ 薪作りワークショップ

4面 ■ 全国各地のとりくみに学ぶ④  
地域通貨「すまいる」で～滋賀県野洲市

5面 ■ クリーンエネルギーの先進地へ 田辺市

6面 ■ 「紀中温暖化対策推進員の会」のとりくみ

7面 ■ 各協議会や推進員のとりくみ紹介

8面 ■ INFORMATION

# 平成23年度和歌山県環境学習セミナー開催

2月17日(金)に海南市下津防災コミュニティセンターにて平成23年度和歌山県環境学習セミナーを開催しました。

本セミナーは、和歌山県における環境学習の推進を図るため、県内の学校教職員、和歌山県環境学習アドバイザー等を対象とし、環境学習に関する指導力向上と相互の交流を目的に行っているもので、今年で8回目を迎えました。

前半は「わかやま環境学習プログラムモデルスクール事業」に係る研究成果報告会として、海南市立巽小学校・大東小学校、紀美野町立野上中学校から、それぞれの学校で取り組んだ環境学習についての研究実践報告を発表していただき、後半の部では環境学習講座として、滋賀大学環境総合研究センター市川智史准教授を迎え、「これからの環境教育ー持続可能な社会に



向けてー」について講演していただきました。

各校からの研究成果報告では、校区の環境を生かした自然体験の取組や、身近な環境についての討論会や

調べ学習、生徒会による取組など、児童生徒の年齢に応じた様々な学習について報告されました。

市川先生の講演では、改正環境教育推進法についての解説を初め、「持続可能な社会」の実現に向け、具体的な例を挙げながら、我々が取り組んでいくべき環境教育・環境学習についての方向性を示す内容の話をさせていただきました。

県では環境教育・環境学習について、この他に、「県環境学習アドバイザー派遣」、「ストップ地球温暖化ポスターコンクール」、「こどもエコクラブ・県事務局」(環境生活総務課)、エコティーチャー養成研修会(県教育委員会)等の事業も行っております。詳しくは県庁環境生活総務課ホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/econet/index.html>をご覧ください。



## エコチャレンジわかやま・優秀取組が決まりました

平成23年度エコチャレンジわかやま事業について、世帯部門で146世帯、団体部門で4団体の応募がありました。その中から各賞の入賞者が決定しましたのでお知らせいたします。

### エコチャレンジわかやまとは??

環境家計簿カレンダーを活用して省エネに取り組んでいただき平成23年(7月～9月)分の電気使用量等の記録を報告していただいた方の中から取組結果が優秀な方を表彰するものです。

#### 【優秀取組世帯・団体】

##### 世帯部門

##### ●電気カットでエコで賞

☆電気使用量について、前年度比で削減率の高かった世帯

- 1位 松本湛子さん(橋本市) 54%削減
- 2位 石井勝次さん(有田市) 46%削減
- 3位 中村桂子さん(和歌山市) 42%削減
- 4位 駒形敏則さん(和歌山市) 40%削減

##### ●エコチャレ賞

☆ユニークで優秀な環境にやさしい取組を報告してくださった世帯

林 幸代さん(橋本市)

エコチャレ研修会に参加し省エネの知識を身につけ、簾で西日対策を行ったり、カーテンを二重にしたり、家の立地条件を考慮しエアコンを控えるなどを実践し前年度比26%の電気使用量の削減に成功した。

##### 団体部門

##### ●みんな電気カットでエコで賞

☆電気使用量について、前年度比で削減率の高かった団体

和歌浦婦人会 17%削減

##### ●みんなエコチャレ賞

☆ユニークで優秀な環境にやさしい取組を報告してくださった団体

和歌山県立桐蔭中学校

学校で目標と節電の取組を考え「30分間のエアコン停止」「2分の1消灯」を3学年2クラスずつの合計6クラスで実施。

また学校だけでなくとまらず、夏休みを利用して各家庭で環境家計簿カレンダーを使って節電に取り組み、授業で振り返りを行った。

○平成24年度も7月～9月をチャレンジ期間として「エコチャレンジわかやま」を実施します。ぜひご応募ください。

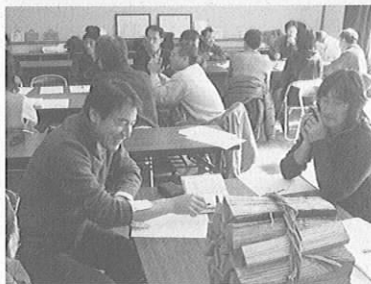
○なお、平成24年度版環境家計簿カレンダーは県庁(環境生活総務課、各保健所窓口)及び市町村役場(環境担当課)等にて4月より無料で配布します。

(家計簿カレンダーの活用方法や身近な地球温暖化対策について詳しくお知りになりたい方々が開催する勉強会に無料で講師を派遣する制)度も実施予定です。

# 薪作りワークショップ

木質バイオマス資源活用事業

1月28日と29日、古座川町平井の里で、薪づくり学習会&ワークショップが行われました。「ゆずの学校」に据えられた薪ストーブ用の薪づくりを体験し、薪の持続的な供給体制を考える企画です。



初日の28日は、旧七川小学校平井分校の教室を活用した研修室で学習会が行われ、地元の方を含む老若男女24名が集いました。

南紀森林組合長の寺田氏から「古座川の森の現状と未来」を林業家の視点で、また、「住み続けられる山里づくり～私たちの挑戦」をテーマに「古座川ゆず平井の里」の倉岡さん、再生可能エネルギーの未来について「NPOわかやま環境ネットワーク」代表理事の重栖氏より提起。3氏による「持続可能な自然・人・エネルギーについて」の話は、今後の日本が目指すべき方向性を示唆し、「豊かさ」について改めて考えさせられる内容でした。

翌29日は朝から薪づくり。地元の作業指導者からチェーンソーの使い方を教わり、初めて使う参加者も恐る恐るタンコロ作り（丸太を薪ストーブ用に短くカット）に汗を流しました。次いで軽トラック4～5台分のタンコロを斧や薪割機を使って薪割りです。フラフラになりながら、およそ2トンの薪を午前中に作り上げました。

地元で採れた食材たっぷりの昼食後は、「薪の供給体制づくり」をテーマに、3チームに分かれて企画・発



表のワークショップ。経済性や起業の可能性など一歩踏み込んだ、実現可能な企画が相次ぎました。

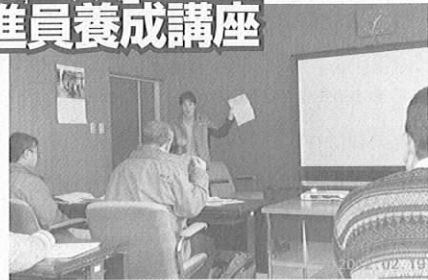
薪の消費者（ストーブやボイラーの使用者）が「薪のDIY」をすることで市場価格よりも安く手に入れることができ、供給側も安定した販売先ができることで継続的な事業にすることができる。「薪づくりまつり」のようなイベントで、「ゆず平井の里」のネームバリューを高めることも可能。また、燃料費とCO<sub>2</sub>排出の削減にもなり、当地の豊かな「自然」が「資産」として生かされるチャンスとなる、というような企画で、地元参加者からは実現への期待の声が・・・。

すべての予定を終了し、薪ストーブの横に座っているとそのまま眠ってしまいそうです。薪のはじける音、オレンジの炎、柔らかい暖気。「利便性」や「効率化」という言葉と一線を画する世界に「本当の豊かさ」がひそんでいるのかもしれません。

第8期

## 県地球温暖化防止活動推進員養成講座

### 県内2ヶ所で開催



県センターは、第8期の推進員養成講座を、12月に紀の川市、2月に田辺市中辺路で開催し、合計17名が受講しました。

昨年度から、各地域協議会が推薦した人で、養成講座を受けた後に3回以上の実践活動を行うことを条件に、県知事が委嘱することになりましたが、今期の受講生は、す

でに各地の地域対策協議会などに参加し実践を重ねてこられた方が多く、中には元エンジニアや元木質バイオマスのコンサル会社スタッフ、議員など一騎当千の精鋭もあられます。また、東日本大震災、福島第一原発の事故があり、エネルギー問題に関心が高く、何とかしてゆこうという、積極的な方たちです。委嘱後の活躍が今から楽しみです。

# 地域通貨「すまいる」で地域協働太陽光発電所

滋賀県野洲市

「100年スタンス」「持続」「身の丈」がキーワード

今回は、「協働」の仕組みを先駆的に築き発展させてきた滋賀県野洲市をとりあげ、協働による再生可能エネルギーの普及、とりわけ、地域通貨「すまいる」による地産地消と太陽光発電システム普及についてその仕組みを紹介します。



野洲市は、人口約5万1000人、近江富士（三上山）など低い山並みがありますが、平坦で農地が約40%、農業の盛んな地域です。琵琶湖にも面し漁業も行われています。

プレハブづくりの「すまいる市」野洲駅前店には、地元でとれた新鮮な野菜やくだもの、「フナ鮎」や琵琶湖産加工品、山で採ったサカキ、手作り豆腐やオムライスなどが所狭しと並べられています。加盟事業者のみなさんが商品を届けにきます。コミュニケーター役の店員が座るレジの上の棚には、お客がキープしている地域通貨「すまいる」チケットの束がズラリ。

ここは地産地消と自然エネルギー普及のステーション、市民のコミュニケーションの場です。

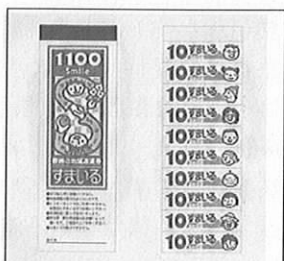


生花を届ける花屋さん



「すまいる市」野洲駅前店

地域通貨を使った太陽光発電設置のとりくみが本格化したのは、2004年秋から。その仕組みは、①市民がNPO法人に1口1,000円の寄付をする。②NPO法人は寄付のお礼に1口あたり1,100円分の地域通貨「すまいる」(=110すまいる)を発行。③「すまいる」は、



地域通貨「すまいる」

地域通貨加盟店や一定の公共施設で利用でき、発効後半年の期限で消滅。通貨による割引率は各加盟店が決定する。(例えば「1,000円の買物につき、50円分は地域通貨が使え」等)。④加盟店は、使われた「すまいる」を年度末にNPO法人に持っていくと、その分の協力感謝金がもらえる。⑤NPO法人はこの寄付金が一定の額になれば、公共施設の屋根等に太陽光発電設備を設置し、それを行政に寄付する。というものです。

この仕組みで、現在市内3カ所に太陽光発電システム(出力合計10.9kw)を設置し、年間約1万3000kWhの発電をしています。売電益は「協力感謝金」に活用されています。

野洲市の住民と行政・企業の協働による環境のまちづくりの取り組みは、合併前の1995年、「ほほえみやすちょう宣言」に始まります。98年には域内にどんな団体がどんな活動をしているのかを明確にした「ま

ちづくり白書」を作成。そして1999年から2年がかりで、それまで多彩な活動を展開してきた各種環境団体と、廃食油の燃料化など様々な実践を積み重ねてきた行政の協働作業により、住民自ら地域のエネルギー政策の方向性を指し示す「地域新エネルギービジョン」を策定します。このビジョンの具体化が、太陽光発電普及を目的にした「エコSUNプロジェクト」で、「地域経済の活性化につなげる」「善意者に頼らない」「補助に頼らない」自主的な仕組みとして構築し、また、その仕組みを動かすために、住民・企業・行政の対等な参加をサポートするための第三者機関、NPO法人「エコロカル ヤス ドットコム」を設立。この仕組みを発展させ、「地産地消」の協働を加えた現在の「すまいるプロジェクト」(運営は「エコロカル」と「野洲まるかじり協議会」)へと繋がっています。

地域通貨を介在させたことで、行政も含めた参加者全員が損をしない自立的なしくみとなっており、事務局を担うNPO法人も、円と「すまいる」の交換だけで、ほとんど事務負担が発生せず、しかも、雇用を創出するという、さすがに「近江商人」の智慧が生かされたシステムです。

協働推進課の遠藤氏は「協働」の仕組みについて、「幅広い市民がゆっくりと理解できる『100年スタンス』で、持続でき、しかも市民が責任をとれる身の丈が大事」と話します。

同市では1998年以降、公共施設への太陽光発電設置をすすめ、現在19施設に設置(出力合計326.2kw)。また、独自の補助金制度の成果もあり、住宅用、工場などを含めた市内全体の太陽光発電設置件数は682件、出力合計2500kw(2011年12月現在)。世帯比約5%が太陽光発電を設置しており、自然エネルギーが市民に浸透しています。

# 豊かな資源活用しクリーンエネルギーの先進地へ 田辺市

田辺市は昨年末、森林バイオマスや水力、地熱や風力、太陽光など、市内にある豊富な資源を生かす目的で、県や大学、民間の協力を得て、自然エネルギー実用化の可能性を探る研究会を立ち上げる方針を発表しました。これは、東電福島第1原発の甚大な事故後、「脱原発」の世論が大きくなり、また、再生可能エネルギー特別措置法が成立し今年の7月から固定価格買取制度が実施されるなど、全国的に再生可能エネルギー導入の機運が高まっているもとの方針であり、市民からも熱い期待と注目が寄せられています。

田辺市では、2004年、全国に先駆けて龍神村温泉宿泊施設「季楽里(きらり)龍神」にチップボイラー(給湯・温泉加熱用)を導入。今年度は大塔村富里の温泉施設「乙女の湯」に龍神森林組合から供給されるチップを利用するボイラーが設置され、市営木材加工場(中辺路)にも加工時に出る端材やおが粉を燃やし、集成材を乾燥させるためのボイラーが設置されます。「乙女の湯」では重油27,000ℓ/年分、木材加工場では約17,000ℓ/年分のCO<sub>2</sub>削減が見込まれています。また、新しく熊野古道近露に設置された足湯「禊(みそぎ)の湯」にはチップボイラーが採用されています。

これまで同市では、小中学校や公共施設に太陽光パネルを設置したり、平成22・23年度には、県の「地域グリーンニューディール基金」を活用した事業で町内会



木材加工場の乾燥庫



禊の湯

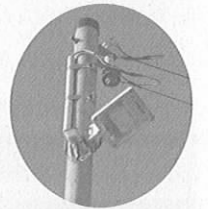
と連携し、市内6,769カ所(推定)ある防犯灯のうち、1,535カ所(23%)をLED電球に交換(残りの箇所への取り替えも検討中)。さらに、電気自動車(EV)普及を見込んだ「急速充電器」を「世界遺産熊野本宮館」(先の台風12号で甚大な

被害)へ来年度には設置し、「EVで和歌山が一周できる」基盤整備の一翼を担うなど、自然エネルギーの導入や省エネ等に努力してきました。

しかし、市民を巻き込んだ温暖化防止のとりくみや、本格的な再生可能エネルギーの活用はこれからです。

今回の研究会設置もまだ入口の段階ではありますが、市職員や市民・市民団体、地元企業などの智恵と力を結集し、地元の資源を生かした「クリーンエネルギーの先進地」へと、大きく前進させて欲しいものです。

充電ネットワークの核となる公共急速充電器設置箇所(H24.2末現在)



設置されたLED防犯灯

## 環境大臣賞グランプリ

### 「栃木農業高校 地域おこしプロジェクト」が受賞

低炭素杯2012

「低炭素杯2012」が2月18日～19日の2日間にわたり東京ビッグサイトで開催されました。



「低炭素杯」は未来に向けて低炭素な社会の実現のために、全国の様々な草の根活動を紹介、表彰し交流しようという取り組みです。全国から41の団体がこの日の決勝に残りました。取り組みには地域を上げての大きな取り組みや数人程度のものまで様々な活動が紹介されました。

低炭素杯(トロフィー)は、造形作家の斎藤公太郎氏が、東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市立湊小学校の子供たちと一緒に創り上げたもので、その素材には津波によって倒壊した家屋の木材が使われています。

審査結果は、環境大臣賞グランプリを「栃木農業高等

学校 地域おこしプロジェクト班(栃木県)が受賞。地元の渡良瀬遊水地のヨシ原を守り、農村のヨシヅ産業を復活させることで「くずヨシ」からヨシ堆肥を開発。放置されたヨシ原から出る温室効果ガスを減らし、ヨシ堆肥や手作りヨシヅなどの売上で足尾銅山の植林活動を行うなど、「ヨシ」を次世代に継承する活動が評価されました。

環境大臣賞、特別賞は表のとおりです。その他「協賛・協力企業賞」「審査員特別賞」があり13団体が受賞しました。

「低炭素杯2012」表彰結果

区分	賞名	団体名	活動名	地域
環境大臣賞	グランプリ	栃木農業高等学校地域おこしプロジェクト班	守れヨシの温泉、とりもどせ農村のヨシヅ作り	栃木県
	金賞(地域活動部門)	NPO法人あきた菜の花ネットワーク	菜の花が秋田を元気にしよう!(菜の花から始まる循環型社会)	秋田県
	金賞(学生活動部門)	神奈川県立相模高等学校産産部	新社会環境安全・循環型社会の構築・地域に貢献するリサイクル・エコ活動の推進	神奈川県
	金賞(企業活動部門)	アイフルホームカンパニー	日本全国・地域まるごとCO <sub>2</sub> ゼロミッションプロジェクト	東京都
	金賞(ソーシャルビジネス部門)	有限会社仲田種苗園	シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性の還元	福島県
特別賞	東日本大震災被災地域貢献活動賞	いっしょにイオディーゼルネットワーク	東日本大震災におけるBDF燃料による被災地緊急支援	岩手県
		NPO法人BDFネットワーク	BDF燃料の普及を軸にした復興支援活動	宮城県
		NPO法人そらべあ基金	太陽光と地熱及び地域社会と循環型社会構築一歩として被災地支援へ	東京都
	節電対策員献活動賞	ENEX株式会社	地下水熱を利用した低炭素型ヒートポンプエアコン	秋田県

# 有田市から印南町までの推進員らで結成 紀中温暖化対策推進員の会

## 「エコネット紀中」

当初は、紀南地域地球温暖化対策協議会のメンバーで湯浅町在住の1期の推進員が、啓発活動の相互協力連携を進める為、御坊のメンバーに声を掛け、湯浅と御坊交互の会場で情報交換会をする様になり、2年前の6月、県地域草の根運動推進事業の支援金を受けるべく登録し一緒に活動するようになりました。

有田市から印南町まで各市町村の推進員18名が会員となっていますが、各市町村に温度差があり、人が多く集まるイベントに出展を申し込んでも断られ、啓発のピラを配るだけならと、旗を持って啓発チラシを配った悲しい思い出もあります。

今もイベント出展を申し込みする中で、推進員の活動を理解していない行政もあり、その様な時は保健所の衛生環境課長から行政に連絡を入れてもらい、推進



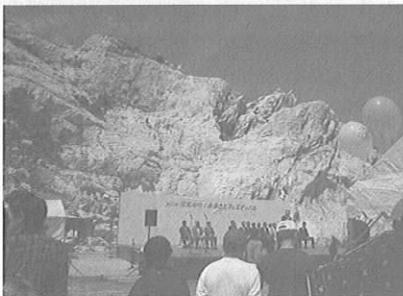
平成21年9月 輝け有田! わっと君



平成21年11月 愛あいまつり(湯浅町)

員の活動の説明をしに行く事もあります。イベント出展では必ず管轄の保健所に行き告知をして、県庁の循環型社会推進課から3Rのパネルを借り、イベント終了後は必ず結果の報告をしています。今は、湯浅町・広川町・由良町・御坊市と毎年出展が定まっている所もありますが、それ以外の町でも定例で実施するのが目標です。

県地域草の根運動推進事業のおかげで、啓発のパネルや啓発の為に器具・グッズなどを揃える事が出来ましたが、今後は推進員一人一人のレベルアップを計り、昨年3月11日の原発の事故以降、火力発電所がフル稼働する中で、CO<sub>2</sub>の削減の言葉が聞こえなくなっていますが、各市町村に義務づけられている地球温暖化対策実行計画の策定に協力し、頑張っていきたいと考えています。(推進員 樫村さん)



平成21年5月 ふるさとフェスタ(由良町)



平成23年10月 宮子姫港まつり

## 「防災と自然エネルギー」テーマにシンポ

紀南協議会

1月21日に田辺市のビッグUでシンポジウム「災害に強い地域づくり～自然エネルギーの役割～」が開催されました。

講演者に県内外から災害や自然エネルギー活用の現場に詳しい方々を選び、台風被災時の地域の状況や、岩手県での薪風呂ボランティア、山間に適した木質バイオマスによる地域活性化事例などが発表されました。地域での防災の視点では集落単位での自立の重要性が指摘され、エネルギーについても電気や熱の確保だけでなく、木質バイオマスを使って仕事を生み出す取組から地域自立について議論しました。私も災害復旧時の風呂の役割を実感し、日常の地域コミュニケーションの場としての山の水と薪を使う集落共同浴場を提案しました。

また、集落の自立性の指標として、集落単位での祭りができるかどうか参考になるようです。災害という非日常への対応力は、祭りという非日常での役割分担によって養われるように、日常生活の中に防災にも役立つものを取り込んでいくことが重要です。最後に全国で展開されている事例をモデルにして、何かに取組んでみたい地域を募集しました。協議会でも地域とともに考えていきたいと思ひます。 紀南協議会 安原克彦(田辺市本宮町)



## オーガニック料理教室とワークショップ開催

1月21日(土) 参加者39名

今年第1回目の『持続可能な社会づくり』研究会は、高野口地区公民館で「未来の食卓を考える」フリートークと「オーガニック」料理教室を開催しました。午前中から有機野菜と無添加オーガニックの材料だけを使った調理を行い、午後に会議の参加者全員で試食しました。



その後、「食から見る地球環境」と題したプレゼンテーションを行い、自給率のことやフードマイレージ、廃棄される食糧、飢餓と貧困の実態などが説明され、ワー

クショップは6つのグループに分かれて「未来の食卓のイメージ?」→「現在の食の実態」→「その原因」そして「食に関する各グループの提言」という順でブレインストーミングを行いました。参加者は中学生2名、高校生2名、一般35名と年齢層も幅広く、活発に議論がなされ、最後にそれぞれのグループで「未来の食卓」提言を行いました。



発表された21項目の提言は、その場で印刷して参加者に渡すとともに、今後この地域での「食」に関する宣言や行政への提言に生かしていく予定です。

(推進員 佐藤さん)

## 紀の川市「60のつどい」にブース出展

1月21日『よみがえれ☆青春☆』をテーマに還暦を迎えた人たちを対象に式典が粉河ふるさとセンターで実施されました。

還暦と言っても高齢化社会を迎えた今日、豊富な知識、経験、技術を持ち体的にも充実した年齢で、これからの人生を健康で心豊かに過ごせる様、又生涯学習のきっかけづくりを目的として開催されました。

地域から選出された協力委員(28名)が第2部を企画・運営。まさしく行政と地域の協働による催しで、今年度から『「60のつどい」つれもてI K Oカード』が発行され、本人と友人・家族など同伴者も参加できるようになり大変好評でした。

第1部は「ふるさと再発見～紀の川市のまつり・行事～」のビデオ上映、「生涯学習活動の紹介」。そしてアト



ラクションは「紀州わらべうた粉河教室」のかわいい子供たちのハンドベルと童謡、昔の遊びなどを楽しみ、第2部ではバラエティーに富んだ昔懐かしい音楽で会場が一つになり、笑顔、歌声でいっぱいになったひとときでした。

エントランスホールでは紀の川市協議会ははじめ28出展団体の紹介や体験コーナーがあり、そこで地球温暖化防止活動をPR致しました。

盛り沢山の催しで参加者全員若返り、元気ももらった午後でした。

(推進員 岸本さん)

## 白浜町で温暖化防止とコミュニティづくりに挑戦

11年前白浜町にやって来られた元エンジニアの内海洋一さん。廃業したホテルを買い取り、そこを拠点に行っている大変ユニークな活動を紹介します。

まずは、色々な人が出入りし、交流を深めたいの思いから、客室としてベトナムの間・南欧風の間・アメリ



ーアメリカの間・江戸時代風の間等面白い部屋が揃っていたり、放課後近所の子供たちが集まれるようにと駄菓子屋さんコーナーもあります。



温暖化対策の為、小規模の水力や風力発電機的设计・製造も行われており、設計室の中には変わった形の水車や風車が置いてありました。

只、内海さんの目指す処は「物質的な豊かさより本当の意味での心の豊かさ」。その為の温暖化対策でありコミュニティづくりだという熱い思いを語っていただきました。

ちなみに広間では勉強会等も行えますので、泊りがけでワークショップもできますよ。

(推進員 多田さん)

## 有機農業者全県交流会 開かれる

県内の有機農家でつくる和歌山有機農業生産者懇話会と、那賀地方の地方公共団体や農業団体などで構成する那賀地方有機農業推進協議会は2月8日～9日、和歌山市加太の保養施設「休暇村紀州加太」で「有機農業全県交流会」を開きました。

同交流会は、県内各地で取り組まれている有機農業の実情を相互に知り合い、交流を深めようと企画された催しで今回が初めて。初日の8日には11の有機農業グループと産消提携1団体



体が経験を発表、有機農業者を中心に消費者や行政関係者を加え75人が学び合うとともに、夜の懇親会までおおいに交流を

深めました。また、翌9日は和歌山市梅原の貴志農園と大阪府泉南市の(有)阪急泉南グリーンファームでは場見学を行い、それぞれ園主さんからの丁寧な説明を受けて見識を深めました。



県内の有機農家がこれだけの規模で集まり、またこれだけ長時間、顔をつきあわせて熱心に意見交換をするのは初めての試みだけに驚きや発見が多くあり、参加者からは、「同じ思いを共有する有機農家のがんばりに励まされた」「帰ってから試してみたいことが見つかった」など、実り多い集まりだったとの感想が多く寄せられました。

## INFORMATION

### ●第9回 地球温暖化防止活動推進員 関西合同研修会

日時：平成24年3月16日(金) 11:00～16:00  
会場：ダイワロイネットホテル和歌山 4Fブリエ (和歌山県和歌山市七番町26-1)

講演：鈴木 高広氏  
(近畿大学生物理工学部教授 東京理科大学客員教授 農学博士)  
テーマ「地球環境の高リスクエネルギーを 全量代替する燃料芋の国産技術」

グループ討議：  
ファシリテーター 久保田 洋一氏  
(株式会社関西総合研究所研究フェロー、NPO法人近畿水の塾理事、まちの会代表、ねや川水辺クラブ)

地球温暖化防止活動推進員が他府県の活動についての情報を共有するとともに、共通の課題に対して解決策を協議して検討します。

連絡先：和歌山県環境生活総務課 073-441-2690

### ●「地球温暖化と気候変動の講演会」

大阪管区気象台 技術部 地球温暖化情報官、和歌山地方気象台 調査官の諸氏を迎え、一歩踏み込んだ地球温暖化の問題についての学習会を企画致しました。ぜひご参加下さい。

日時：平成24年3月17日(土) 13:30～16:00  
場所：紀の川市打田生涯学習センター (視聴覚教室)  
参加費：無料  
連絡先：紀の川市地球温暖化対策協議会 (080-3031-8266)

### ●プロジェクト未来遺産 生物多様性フォーラム

【第一部】基調報告・地域報告  
「生物多様性の方向性・価値を考える」

鷲谷いづみ氏(東大大学院農学生命科学研究科教授)  
干坂げんぼつ氏(法定協議会・久保川イーハートープ自然再生協議会会長)  
笹木智恵子氏(NPO法人ウェットランド中池見理事長)  
和歌山県立向陽中学校理科部

【第二部】パネルディスカッション  
「生物多様性の重要性を考える」

主催：NPO法人 自然回復を試みる会ピオトーブ孟子  
共催：和歌山県  
日時：平成24年3月17日(土) 13:00～  
会場：和歌山大学地域連携・生涯学習センター(松下会館)  
和歌山市西高松1-7-20 (073-427-4623)

参加費：無料  
連絡先：073-484-5810  
海南市わんぱく公園内(有本・いしお)

### ●『エコライフ、エコシティを目指して』

和歌山市環境啓発レポート  
和歌山市  
エコライフチームが発行

わかやま環境ネットワークは、2009年度から2011年度、和歌山市より「エコライフ促進事業」を受託し、環境指導員(エコライフ促進チーム)を養成するとともに、環境啓発活動を行ってきました。この活動で得た知識を整理し、それをまとめた形で市民の皆さんに提供できればと、レポート冊子『エコライフ、エコシティを目指して』を発行しました。ご希望の方は、NPOわかやま環境ネットワークにお問い合わせください。



### 【発行】

和歌山県環境生活総務課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL:073-441-2690 FAX:073-433-3590  
mail:e0317001@pref.wakayama.lg.jp

### 【編集・お問合わせ】

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

〒640-8269 和歌山市小松原通3-22  
TEL:073-432-0234 FAX:073-432-3881  
mail:wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。